



www.chikamori.com ● 社会医療法人近森会 / 高知市大川筋一丁目 1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正康 / 事務局 ● 寺田文彦

NST（栄養サポートチーム）15年目記念

臨床栄養部部長 宮澤 靖



2003年7月1日 NST 発足

2003年7月1日、高知県では初となるNST（栄養サポートチーム）が近森病院に誕生いたしました。その当時は、現在のように「NST 加算」もなく、「NST って何？」という時代でありました。一人の管理栄養士が2～3病棟を掛け持ちしておりましたので、処理患者数が少なく、他職種の皆さんにご迷惑をおかけしたと思っております。

近森病院 NST の名前が広く浸透

2005年4月には集中治療棟のNSTカンファレンスが週に2回開催されるようになり、2007年3月には休祝日の管理栄養士出勤体制ならびに24時間対応が整い、2008年10月に近森病院において全病棟に管理栄養士を配置する体制が整いました。

NSTは、この間に39,927名（2017年3月31日まで）もの患者さんの栄養サポートをさせていただきました。この症例数は、全国でもずば抜けて多い数字であり、多くの医療スタッフに支えられながらここまでできるようになりました。近年では近森病院 NST の名前が広く浸透し、見学者を多く受

け入れることができるようになり、高い評価をいただくことがあります。

教育活動の成果

教育活動にも力を入れており、昨年度末時点で受験資格のある全管理栄養士がNST 専門療法士の資格を有し他院からの受験資格取得のための実習も含め通年で80名を毎年受け入れて来しました。尚、当院での実習生の試験合格率は100%です。NST 設立時の4名の管理栄養士も現在では23名まで増員され各病棟に複数名配置という全国でも希少な常駐体制をとっています。NST 加算も算定開始年度より7年間で月平均663症例と経済効果も示すことができてきました。

近森病院 NST の特徴

近森病院のNSTの特徴は、1) 全科、全患者型の予防型NSTである。2) 早



期に経口・経腸栄養を開始すべきと考える。3) 全病棟で、管理栄養士と担当医、看護師が毎日低栄養の患者さんに対応し、また管理栄養士が休祝日も出勤、夜間呼び出し体制をとっている。4) 管理栄養士も、病歴や全身所見、画像、検査所見から、病態把握ができるように努めている。5) 栄養サポートの最終目標は、骨格筋を作ることであり、栄養を投与し、身体を動かす、筋肉をつけることが必要になるためリハスタッフと連携を強化していることが特徴です。

日常の病棟活動に

今回、15年目を迎えることができたのも、多くの他部署の皆さんのご支援とご理解の賜物と深く感謝しております。この誌面をお借りして御礼申し上げます。

15年目は通過点であり、最終目標は、「日常病棟活動に取り込まれること」であると思っています。「Serving, Loving, Healing, and Recovering by Nutrition!」どうぞこれからもご支援をお願いいたします。

みやざわ やすし



	年間算定件数 (件)	平均件数/月
2010年度	8,663	722
2011年度	9,016	751
2012年度	7,618	634
2013年度	9,664	805
2014年度	6,824	568
2015年度	6,610	550
2016年度	7,308	609
合計	55,703件	663件



近森病院総合心療センター
副センター長 宮崎 洋一

発達障害という見立て

精神科の診断というのはこの連載一回目で書いた通り、脳についてわかっていなかった時代に立てた仮説のようなものですので、あまり科学的とはいえない、五人の精神科医に診てもらったと、五つの異なる病名がつくこともないとはいき切れません。今後、精神科の診断も大きく変わっていくと予想されますが、とりあえずは患者さんの生活の質が改善し、豊かになることにつ

ながる見立てであれば良いと考えています。

そのような点から考えると精神科の診断の中で「発達障害」と「パーソナリティ障害」の二つは最もアバウトな診断ですが、「発達障害」という見立てでは多くの場合、当事者やご家族を良い方向に変えていける有効な見立てと思われる。自分がどこか他の人と違うとか、どうしてこんなことができないのだろうと幼い頃から悩んできた当事者にとって、自分は発達障害であるという気づきは随分と心の重荷を軽くすることが多いと思われます。

成人の発達障害という見立てが生まれてきたことは、病名をつけることが当事者にとってマイナスになりがちであった近代精神医学の歴史の中で、数少ない望ましい出来事であったように

思います。

発達障害というのは精神機能のある部分の偏りが大きく、精神機能のどこが大きいという以上の意味は持ちません。「ひろっぱ」の読者の皆様にぜひ理解していただきたいことは、発達障害というのは決して特殊なものではなく全てにおいて平均的な人というのはいないわけで、万人に程度の差はあれ発達障害的側面があるということです。

また大変にアバウトな概念であるためグレーゾーンが広く心理テスト他で発達障害であるかどうかを白黒つけようとしても困難だといえます。ちなみに医師は自由度が高い職域ですので、間違いなく発達障害と言える方の割合が高いと思われます。

みやざき よういち

7月の歳時記

サルビア

近森病院手術室
看護師 廣井美友紀

サルビアと聞くと、赤い花をイメージすると思いますが、園芸品種がとて多く500種以上あり、花色もピンク・白・紫・青などもあります。花言葉も色によって異なりますが、全てのサルビアに共通した花言葉は「家族愛」と「良い家族」です。共に家庭や家族に関連した花言葉なので、大切な家族に贈ってみてはどうでしょう？

ひろい みゆき



● 近森看護学校通信 18 ●

ただいま2年生奮闘中!!

近森病院附属看護学校

2年生担任専任教員 川村 久美子

2年生は、女性32名、男性9名の計41名で18歳から35歳の年齢層で、社会経験を積んだ人や若さあふれる人などバラエティーに富んだクラスになっています。

学校行事は2年生が主となり行います。初めて企画運営をした新入生の歓迎は、クイズやゲームなど楽しい交流を深めることが出来ました。

今後も、スポーツ大会や学園祭、予餞会などの行事が控えています。みんなで協力し行事を盛り上げてほしいと思います。また10月から始まる臨地実習に向け、知識・技術・態度を猛勉強しています。

このように、行事や実習と多忙な1年間となりますが、クラス全員が力を合わせ頑張っている2年生です。





介護福祉士として大事にしていること

近森リハビリテーション病院 6階病棟西
介護福祉士主任 新井 佐和子

近森リハビリテーション病院は、急性期から維持期へ向けての、回復期という重要なつなぎ目の役割を担っています。

回復期の患者さんは障害を受容するための葛藤や今後の生活に対して大きな不安が生まれ、心身ともにバランスを崩しやすい時期です。

入院をするだけでも、他人と生活することは精神的に楽なことではありません。それに加え障害があることによって、今までできていたことができなくなるといことは並大抵のストレ

スではないと思います。

入院中の患者さんにとっては、病棟が生活の場となります。私たち介護福祉士は他職種のスタッフと協力し食事・排泄・整容など身体面のケアだけではなく、精神面のケアも行っています。

障害の程度が違っていても、どこまで回復できるか、退院後の生活など少なからず不安があります。不安を抱えているのは入院している患者さんだけでなく、ご家族も同じです。介護福祉士は、そのようなご家族、患者さんと

同じ視点で考えることができ、より近い存在だと思っています。私は実際に入院したり、ご家族の立場になったことはありませんがその立場になったことを想定し、実際に話を傾聴することで、自分なりの方法で寄り添えるように努力しています。

今後も数カ月という短い入院期間で、自分に何ができるか思考錯誤しながらも相手の立場を理解し、入院中や退院後もその人らしい生活ができることを念頭に置いてケアを提供していきたいです。 にい さわこ

リレー エッセイ

目標は 47 都道府県制覇

秘書課 西岡 詩織



本来の「遠征」の意味は遠くに征伐に行くことですが、近年ではライブやイベントに参加するために、遠出することを「遠征」と呼んだりしています。

遠征をするようになってから幾年。慣れない頃は準備のたびに忘れ物はないかとそわそわしていましたが、今ではチケットさえ忘れなければ何とかなると開き直っています。ですが、うっかり違うライブのチケットを鞆に入れて出発してしまったこともありました。その時は幸いにも家に引き返せる段階で気付くことが出来たので助かりましたが、それ以来チケットの確認だけは入念に行っています。

最近では電子チケットを導入するところも増えてきました。スマホを忘れることはそうそうないので、少々

そそっかしい私としては喜ばしい限りです。

同じアーティストの同じツアーのライブに何度も行くななんて意味が分からない、両日公演ならどちらか1日行けば良いのでは？という人もいますが、ライブは生もの。全く同じライブは存在しません。衣装、MC、セットリスト、会場の雰囲気、出演者のコンディション等々、ライブごとに微妙に違うのです。だからこそ、私はせっせと遠征をしてライブ参戦を繰り返しています。

遠征はもはや私の生きがいであり、ライフワークなのです。このためだけに働いていると言っても過言ではありません。だから遠征、ひいてはライブ・イベント参戦のために今日も頑張っています！

にしおか しおり



▲L'Arc～en～Cielのライブにて



▲アイスショーに欠かせないプルシェンコ元選手の応援バナー

乞！熱烈応援

近森病院での二人の恩師

近森病院 外科
主任部長兼医局長 八木 健



初めて近森病院外科に来たのは、近森正幸理事長と北村龍彦前副院長がお二人とも現役バリバリの外科医だった平成4年でした。近森先生からはスピード感あふれる大胆さと決断力に長けた手術を、また北村先生からは緻密で細やかな気配りに充ちた手術を学びました。このお二人の教えが融合して自分の基礎になっていると、今あらためて感じています。 やぎ けん

救急医としてだけでなく

近森病院 救急科
部長 井原 則之



医師になって20年目、近森病院に来て丸10年となります。この10年で近森病院は救命救急センター・災害拠点病院となり、ER・救急科組織としてもさらに活動を広げております。これからも病院の救急医としてだけでなく、高知市・県・四国地方・日本・世界それぞれのレベルでの活動をバランスよく視野に入れて頑張っていこうと思います。 いはら のりゆき

初心不可忘

近森病院 泌尿器科
部長 濱口 卓也



2008年4月に近森病院に来て、早や9年が過ぎようとしています。年月を経るに従い忘れがちな初心、医師を志した時の初志、医師になったときの志、どれも大事な初心です。「初心不可忘」を胸にこれからも日々精進を心掛け、患者さんには一日でもはやく退院いただけるように診療したいと考えています。

はまぐち たくや

ザ・RINSHO 管理部 総務課広報



▲広報・教育チーム、筆者中央

「広報」と称されることが多いのですが、私たちは「広報・教育チーム」として、3人体制で活動しています。「ひろっぱ」で毎月30人以上の執筆者らとやり取りをしますし、研修では1日40～80人とお会いしますので、顔と名前は一致せずとも、何かしら見聞きしたことがある方が多いのではないのでしょうか。

写真撮影やイベント業務でスタッフとの情報収集はもちろん、見学対応や講演会等では外部との交流が多いため、刺激を受けます。それらを活かして近森会グループの情報を発信すること、また、患者さんの声を受けとめるアンケートの窓口も担当することで、

さまざまな活動に応じて

▼見学者からも好評のパンフレット

管理部総務課
広報主任 鍵本 由紀

「よく発し、よく聴く」を目指しています。

教育担当としては人材育成委員会の事務局として、階層別研修や人事考課研修、統計セミナー、管理部新人研修などをはじめ、職員のレベルアップに向けた取り組みをサポートしています。また、勉強会、講演会情報をまとめ後利用に役立てるなど地道な積み重ねも多い部署です。

こうした様々な活動を通じて、それぞれの職能に特化できるようサポートを頑張りますので、部署にお邪魔した際はどうぞ温かい目で受け入れてください。

かぎもと ゆき



よさこい「ちかもり」



2017年
8月10日(木)▶11日(金)
「ちかもり」獅子舞集、踊りは舞臺裏面に書くぞい。

本当に多くの方から応援協賛・寄付をいただきました。ご協力ありがとうございます。本祭まであと約一カ月、精一杯がんばります。

できることをコツコツと

近森病院 放射線科
部長 清水 和人



近森病院に赴任して11年が経過しました。気づけば近森病院の圧倒的なスピード感が普通となっており、医師としての年数の半分以上を近森病院で働かせていただいています。今回の部長拝命に舞い上がらず、自分のできることをコツコツとやっていきたいと思えます。 しみず かずと

評価者のスキルアップを実感

人材育成委員会
管理部総務課 課長 小松 左和

人事考課制度導入にあたり、6年前より下田静香講師をお招きして評価者研修を実施しています。当初は人事考課制度に対してネガティブなイメージを持っていた管理職も、制度の目的やフィードバック面接の進め方などを教わり、事例評価練習を重ねていくうちにマイナスイメージは払拭され、前向きにとらえることができるようになりました。

▼講師の下田静香先生



研修では陥りやすい評価ミスなども必ず復習し、評価者は自己点検の機会を得ることができます。継続した基礎学習に新規学習内容を上手く織り込んだ研修効果により、評価者のスキルアップが実感できるようになってきました。

こまつ さわ

ハッスル研修医

少しずつ 初期研修医 今福 輝

九州の地から近森病院にやってきました。高知県にも少しずつ慣れてきたかなといったところです。(ゆっくり休める日もなく、あまり遊びには行っていませんが…笑)

研修がスタートして早くも1カ月以上が経ちました。電子カルテの使い方はおろか、患者さんとの対応の仕方や、知識不足、基本的手技のスキルのなさ、人間としての未熟さを



日々痛感しています。

5月から当直が始まりましたが、わからないことだらけであたふたとうまく動けず、上級医の先生方やコメディカルの方々には多大なるご迷

惑をおかけしていると思います。医師に向いていないのではと感じることさえあります。改めて近森病院で働いていらっしゃる先生方の凄さを実感しています。

コミュニケーションが下手で自信がなかなかもてず、殻に閉じこもりがちな性格、同時に複数のことを並行してやるのが苦手な私ですが、今は自分にできることを少しずつ増やしていけるように頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

いまふく ひかる

お弁当拝見 53 野菜中心のお弁当



近森病院透析室
看護師 影山 佐織



私のお弁当は、基本的に作り置きのおかずや前日の残りおかずがほとんどです。子供たちのお弁当も作るようになってから、冷凍食品を入れないようにと考えたからです。勿論、失敗作もありますが、そこは愛嬌でごまかしています。

母としては節約と野菜重視のお弁当を食べてもらいたくて頑張っ作っていました。今春次女が高校を卒業し、子供たちのお弁当作りも卒業です。ちよっぴり寂しいですが、これからは自分のために野菜中心の

お弁当作りを続けようと思います。

かげやま さおり

研修報告 2016年4月1日～2017年3月31日

国立精神・神経医療研究センター 神経内科での研修を終えて

近森病院神経内科

森本 優子



2016年の1年間、東京都小平市にある国立精神・神経医療研究センター（National Center of Neurology and Psychiatry：以下 NCNP）神経内科でレジデントとして研修を行いました。

NCNP は神経内科・小児神経科・精神科を中心とした専門病院であり、神経内科ではいわゆる「神経難病」と呼ばれる神経変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）の患者さんを多く診療しています。より数多くの難病患者の診療に関わり、さまざまな分野の専門家の先生方からのご指導をいただき、自分の経験を深めることができました。

いわゆる神経難病は、直接的な治療法が乏しいことが多く、「他院で難病と診断されていますが、できることはない」と医師に見放された」と感じている患者さんもいらっしゃいました。しかし NCNP では、診療科全体でのカンファレンスを密に行い、「今の患者さんにできることは何か」を考えた上で診療を行うことで、患者さんやそのご家族が笑顔を取り戻していく場面を何度も見ることができました。

また NCNP には研究所が併設されており、研究のマインドを持った医師が多いことも印象的でした。日常診療での小さな疑問から研究課題を見つけていくことで、将来的な難病の治療開発などにも繋がることを実感しました。

この1年間で経験したことを今後の近森病院での診療にも生かし、神経内科医の少ない高知県の医療に少しでも貢献できればと思っております。

もりもと ゆうこ

▼筆者前列左端



出張報告 2017年5月9～11日 / 5月22～24日

2017 年度特別用途食品国際交流会議 2017 中国栄養学会学術総会

臨床栄養部

部長 宮澤 靖



今年5月9日、北京の特別用途食品についての会議に依頼を受け参加しました。政府外郭団体である中国栄養保健食品協会との打ち合わせを前日に行い、10日に「日本の臨床医学における特別用途食品の使用経験」と題して講演しました。

2年半前より数回、中国の臨床現場の指導に行ってきたが感じたことは「ちょうど日本の20年前の現状と品質」という点であります。中国の医師・管理栄養士から幾度となく聞かれたことは「治療に栄養は必要ないと思っている医師が大半」というものです。日本でも20年前にはそのような風潮がありましたが、まさに中国ではそのような現状にあり一部の医師と管理栄養士が孤軍奮闘している状況です。

また治療に使用する特別用途食品も法整備が不十分で、日本の製品に比べるとまだまだ検討の余地が沢山あるものばかりです。今回は昨年施行された食品、医薬品の安全性を確保する法律において、その製品が適格か否かを判断する基準の作製をすることと、日本の高品質の製品をいかに中国の患者さん達に提供するかが会議のポイントでした。

一旦帰国し22日～24日まで再び北京にて「2017中国栄養学会学術総会」が開催され「日本におけるNSTの過去と未来」というテーマで招聘講演をしてきました。近森病院でのNSTの現状や管理栄養士の教育体制についての内容で、多くの参加者より興味を持っていただき「中国でのNST設立のきっかけができた」と座長の薛先生より感謝状を頂戴いたしました。

みやざわ やすし

▲本文上の写真は5月10日「特別用途食品国際交流会議」にて。

▼5月22～24日の「中国栄養学会学術総会」の感謝状と記念写真



医療安全委員会委員長、災害対策委員会委員長、研修プログラム責任者の交代

才女たちに囲まれて

医療安全委員会委員長
近森病院循環器内科
部長 山本 哲史



「安全な医療」の提供は医療の根幹です。重大な事故につながる小さな芽を探り、摘み取ることは我々の重要な業務です。

それが故に、ややもすると、嫌われがちな部署でもあります。しかし、全ての職員と心安い間柄を保つことで、より成熟した医療安全文化が醸成されると信じています。

これにこだわり、医療安全管理部で唯一の男子として、頑張っていきます。
やまもと さとし

攻めの災害医療体制へ

災害対策委員会委員長
近森病院救急科
部長 井原 則之



前任の山本彰呼吸器外科部長から引き継ぎ、近森会災害対策委員長となりました。

DMATなどの病院外での災害医療活動を専ら行っておりましたが、今後は近森グループ内の災害対応についても力を注いでいきます。

近森会グループにおける災害体制は全国的にみてもかなり先進的ですが、積極的な攻めの姿勢でさらに発展させていく所存です。
いはら のりゆき

多様なニーズに応える
人材育成を

初期研修管理委員会
研修プログラム責任者
近森病院救急科
科長 三木 俊史



今回、浜重先生、八木先生と歴任された研修プログラム責任者を受け継ぎました。医学教育は従来のプロセス基盤型からアウトカム基盤型教育へ移行時期であり、臨床研修も研修の質を保証し、社会の多様なニーズに対応できる人材育成のため現行の研修体制をアウトカム基盤型に再構築することが望まれています。当院での臨床研修の経験を活かし、研修医と指導医の両目線で、より良い研修が実践されるよう邁進していきます。
みき としふみ

ワイン講座 ● 53

ぶどう品種を知り、個性を探る
黒ぶどう その32 ポルトガル篇

マデイラワイン ヴェルデーリョ種

マデイラワインの魅力とは、一般的には「甘口ワイン」のイメージが強いが、実は奥深い魅力をもったワインです。

マデイラの楽しみの一つは外観にあり、黄金色から琥珀色、茶色がかった飴色をしています。最大の魅力は、キリッとしたキレのある甘さです。通常のワインでは決して味わえない、豊かなアロマとリッチな味わい、そして高い酸味を持つのがマデイラワインなのです。

辛口タイプは食前酒、甘口はデザートワインとして楽しめることが多く、だいたい10～15度の温度が一番美味しく飲めるといわれています。

エイジ・ド・ヴァラエタル・マデイラ・ヴェルデーリョ 10年熟成/パーベイト/ポルトガル、マデイラ島 ● 今回より甘さを抑えたやや辛口タイプ。と言っても十分に甘く芳醇で深い味わいとコクが感じられます。オレンジがかった黄金色。アプリコットを思わせる果実香やパネラの風味、バランスの取れた酸味で長い余韻を感じます。複雑で素晴らしいあと味。イギリス・ロンドンで毎年開催されるワインコンペのインターナショナル・ワイン・チャレンジにて、全ての酒精強化ワインの中でトップの賞を受賞。

過去の有名人や偉人の多くがマデイラワインの虜になったといえます。かのシェークスピアも「命と引き換えにしてもいい」といわしめるぐらい、マデイラワインを気に入っていたようです。

また、サッカー選手のクリスティアーノ・ロナウドの故郷でもあります。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)



本館受付前 ● 水槽案内

僕らはみんな生きている 10



アルビノ・コリドラス



白い体がよく目立ち、別名「白コリドラス」。つぶらな瞳に、水槽内でチョコチョコと泳ぐコミカルな姿が人気がある。「白コリ」の愛称で呼ばれるぐらい、好きな人にとっては「可愛くて、可愛くて仕方がない」ようだ。「コリマニア」という言葉もあるくらいだ。
編集室

ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



坂本 里沙

さかもと りさ ①麻酔科
医師②岡山県倉敷市③岡山
大学④趣味はサイクリン
グ、バイオリンです。高知
はご飯が美味しいので、グ
ルメハンターしています。
高知トマトに惚れました。



大石 洋平

おおいし ようへい ①循
環器内科医師②大阪府③関
西医科大学医学部④半年と
いう短い間ですが、精一杯
頑張ります。よろしくお願
いします。

事務員の制服が変わりました

6月より事務員の制服が変わりまし
た。ベストとブラウス（白・青・ピンク・
堇色）、黒のオーバーブラウスの二つの
バージョンがあります。



看護部職員採用試験のお知らせ

2018年度 看護職員
近森会グループ 採用試験

私たちと一緒に看護しませんか？

2017年 7/15

CHIKAMORI HEALTH CARE GROUP

中途採用希望の方は、お手数ですが近
森病院看護部長室までご連絡ください。
【代表電話番号】088-822-5231

次回予定：2018年1月13日（土）

人の動き 敬称略

おめでとう

● 2017年5月 県外出張件数 ● 件
数 30件 延べ人数 54人

図書室便り 2017年5月受入分

- ハリソン内科学 第5版 / 福井次
矢 (他日本語版監修)
- 《別冊・増刊号》
- 腎と透析 Vol.82 増刊号 腎生検・病
理診断 臨床と病理の架け橋 / 『腎
と透析』編集委員会 (編集)
- 呼吸器ケア 2017 夏季増刊 オール
カラー 呼吸療法認定士デビューの
ための呼吸ケア Q & A100 / 濱本
実也 (監修)

2017年5月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,685人
新入院患者数	978人
退院患者数	1,024人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	14.69日
地域医療支援病院紹介率	67.52%
地域医療支援病院逆紹介率	159.56%
救急車搬入件数	554件
うち入院件数	284件
手術件数	456件
うち手術室実施	309件
うち全身麻酔件数	175件

編集室通信

通勤は自転車、往復2～30分で、運
動嫌いの自分にはちょうどいい距離。
筋肉量を測ると、上半身は少ないが下
半身は標準にあるのはきっとこの通勤
のおかげ。帰り道、自転車をぶらぶら
こいでいるとオシロイバナの匂いがす
る。目を遣れば夜道にピンクや白で鮮
やかだ。子どもの頃種を漬けて遊んだ
が、夕方開き匂いがすること、夕化粧
の別称は最近知った。 ざきち

「考える」という行為そのものが好き

常に冷静沈着で…

落ちついている。冷静沈着。セカセカしていない。伸び伸びしているというのか、マイペース。

これらは、楠目先生の印象を周りに尋ねたナマの声である。応えて楠目先生は、「好意的な響きを集めると、そんな風になるのでしょうかね…」。そして、沈黙…、沈黙…。

もの静かというのか、じっくり考え、^ま間を置き、軽々しくは言葉を発しないようで…。その辺り、ご自身は、「考えるという行為そのものが好き、だとは思っています」。

こういう慎重な物の言い方は、患者の側からいえば実に信頼でき、気休めは言われない代わりに、「先生が頑張れると言えばホントに頑張れるし、先生に大丈夫と言われたら自信が持てる！」ような気持ちになるのではないだろうか。

心臓を専門に選んだのは、「全身のコントロールができて、学問的にも興味深かった。内科の中では手技が多い」などが主な理由で、「手技」とはいえ外科系を選ばなかったのは、「外科は手術室の中が多いイメージだったから、もう少し外の空気を吸いたいかな(笑)」と。

仕事も趣味も「考える」ひと

昔からクイズ問題とか解くのが好きだった。少し大袈裟に言えば、解答へ辿り着くまでの枝分かれのワクワクする感じに惹かれるということらしい。

まさにいま。病気、病態そのものについて「考える」という行為のイメージが強いのは内科で、その中でも心臓を巡る問題は、「さらに考えさせられることが多い気がする」のだ。

身内に医師がいたので、「進路を決める時期には、当然の選択として、医学部があった」のが、今日に繋がっている。それを迷うことはなかった。

ところで、考える行為が好きなのは、

趣味にも反映されている。映画鑑賞や大学時代のセーリングも相変わらず止めたわけではないが、いちばんのお気に入りには「囲碁」。囲碁の醍醐味は一見「極めて単純」、だが、…、その奥。意味を持たない石ひとつひとつが、線の上に並ぶことで意味を持ち始める。全体では19×19、つまり361カ所の打つ場所があり、打つ手は無限大。このあーでもない、こうでもないハマっていく感覚が、つまり「囲碁が性に合っている」と思うのだそうだ。



▲「妻とセーリング、オーストラリアで」

海での「セーリング」との相性

セーリングは、せっかく海の綺麗な高知に、海のない京都から来たのだから海に出たかったのがきっかけだった。二人組でそれぞれは別のことをしながらもチームワークが求められる。しかも海という自然相手に風を頼りにする以外、思うに任せない。この操縦が意外と楽しかった！ということらしい。

サービス業に分類される職業を選んでいる以上、「当然ながら、どなたでも受け入れる姿勢」で、患者さん第一「患者ファースト」というのはどうということかと、「やはり考えることを大事にしたい」のが、医療者としてのモットーである。

ただいま新婚。初期研修医として近森会で働いていたエマ先生と歩み始めて数カ月が経過した。「笑顔で元気に」がモットーのエマ先生は、「相変わらず笑顔で元気(笑)」だとか。

まず「肯定」から始める

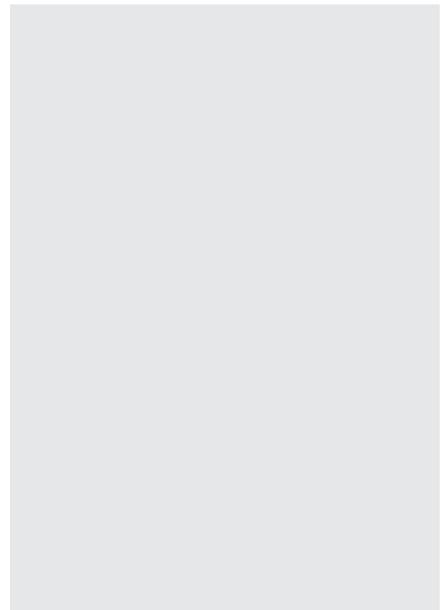
仕事面でも、プライベートでも、原



▲カテーテル検査を終えホッと。首の赤は放射線防護帯。則「間口が広い」というのか、「否定ではなく肯定から始める」発想が根底にある。だから、「人でも、食べ物の好みでも、スタートが肯定」なので、次に進んで、「試したい、知りたい」となり、それがどうやら沈黙考スタイルにも繋がっていくようだ。

仕事もスポーツも、皆でワイワイというより、「自分はどうなのかを大事にしたいタイプ」だから、一見「気難しそう」に映るかも知れない。けれど、付き合いが深まるにつれて思いは熱く熟成されていくようだ。

その辺りの頃合いをいちばんよく知っているのが新婚の妻だろう。





CVC 認定医制度スタート

近森病院放射線科

部長 宮崎 延裕

中心静脈カテーテル (CVC)・PICC (末梢挿入型 CVC) は、全身管理が必要な重症患者、周術期、経口摂取困難な患者の栄養管理などに用いられる、心臓近くの太い静脈 (中心静脈) まで挿入する細い管です。

広く行われている手技ですが、時に重篤な合併症 (動脈穿刺、出血、気胸など) や、感染が起こりえます。また、

研修医の指導方法が必ずしも統一されていませんでした。

医療安全・感染管理・研修管理という複数の観点が存在することから、院長直轄部門として CVC チームが立ち上げられ、CVC 挿入マニュアルを作成しました。骨子は

1) CVC 認定医制度による挿入の標準化・指導法の統一化



2) 超音波ガイド穿刺
3) CVC 連絡票による挿入から抜去までの情報収集の3点です。

奇しくも 2017 年 4 月 13 日には、日本医療安全調査機構の初提言として CVC が取り上げられ、時流に乗った形となりました。

みやざき のぶひろ

看護師特定行為研修 開講式

2 期生 5 名を迎え

看護師特定行為研修指導責任者

近森病院北館 2 階看護師

川村 佳代



近森病院は、中四国初の看護師特定行為研修機関の指定を受け、2 年目を迎えました。今年度は 2 期生 5 名を迎え、6 月 1 日に開講式を行いました。

受講生はまずは共通科目から、勤務しながら e ラーニングで学び、月に 2

日程度、研修室での講義や演習に参加します。来年 1 月から 3 月までは、区分別科目の講義・演習・実習を行う予定です。

今年度から指導責任者として、青柳診療看護師からバトンを受けることに

なりました。責任と重圧を感じておりますが、皆様方にご支援を賜りながら、専門性を発揮し、チーム医療の要となることのできる看護師の育成を目指します。

かわむら かよ



全面禁煙となりました

ご入院患者、および来院の皆さまへ

当院は敷地内および、周辺道路等においても**全面禁煙**としています。



喫煙は、肺がんや喉頭がんを始めとする多くのがんや循環器疾患等を誘発することが知られており、副流煙による受動喫煙は周囲の人にまで健康被害を及ぼします。これまでは、病院敷地内における禁煙を実施してきましたが、建物の出入り口付近、周辺道路などでの喫煙が後を絶たず、来院患者さんの受動喫煙を避けられない状況が続いています。

これらの状況を改善するとともに「健康増進法第 25 条」及び「高知市歩きたばこの防止に関する条例」の趣旨に鑑み、患者さんやその家族およびお見舞いの方など、**病院に出入りされるすべての方々に病院敷地内および周辺道路等での全面禁煙**をお願いしています。

守っていただけない場合は、転院、退院、退去いただく場合もございます。

2017 年 6 月 1 日